

ご挨拶

会長の大森でございます。

本日は、会員の皆様にはご多忙のところをご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

平成 26 年度定時総会の開会にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

わが国の経済は、安倍政権のリーダーシップの下で景気回復に向けた明るさを取り戻し、バブル崩壊後の 20 年にわたる縮小局面から脱して、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックに向け、相応の期待が満ちてきております。

一方、東日本大震災からの復興の遅れや福島第一原子力発電所の処理に次々と起こるトラブル。また、小保方氏の STAP 細胞論文等の問題もあり、科学技術への信頼がなかなか取り戻せないという現状が続いております。

会員の皆様におかれましては、技術士として、技術や科学に対する国民の信頼を取り戻すべくご活躍いただいていることと感謝申し上げます。

こうした中、立命館大学技術士会も発足 5 年目となり、新体制の幹事団のもと、大学との連携を重点に進めてまいりましたが、本年は一層進めて、次に述べる課題を軸に活動していきたいと思っております。

第一の課題は、「会員にとって魅力ある団体とする」ことです。会員相互の情報共有、情報提供や講演会の開催等、会員が積極的に参加できるシステムの構築が何より重要なことでもあります。そのためには、会員からの情報発信を受けられる体制、会報やホームページの充実はもとより、その情報を会員へ伝達できるシステム、等を図っていくこととします。

第二の課題は、「技術士という国家資格を背負う会員からなる集団として何ができるか」を具体的に立案することです。大学との連携による学生への「技術者キャリア形成」に向けた指導や会員技術士による講演・講義、著作物のご提供等をお願いしてまいります。また、大学卒業者を対象とした技術士試験受験に向けての研修指導や論文添削等に関しましても、会員皆様の積極的なご支援をお願いいたします。

以上、立命館大学技術士会は、本年も継続的な発展に向けて会員の皆様のご指導を踏まえ、活動を展開してまいりたいと存じますので、本日ご臨席の皆様、会員各位のご理解とご協力を賜りますよう、切にお願いする次第でございます。

簡単ではございますが、開会に当たりましての挨拶とさせていただきます。